

2023年度

③ 数 学

(100点 60分)

〈注 意 事 項〉

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は2ページから9ページまでです。全問解答しなさい。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 氏名欄
氏名・フリガナを記入しなさい。
 - ② 受験番号欄
受験番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
- 5 正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

〈解 答 上 の 注 意〉

解答上の注意は、裏表紙に記載してあるので、この問題冊子を裏返して必ず読みなさい。ただし、問題冊子を開いてはいけません。

数 学

(全問必答)

第1問 (配点 25)

(1) $x = \frac{\sqrt{5} + \sqrt{2}}{3}$, $y = \frac{\sqrt{5} - \sqrt{2}}{3}$ のとき,

$$xy = \frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}, \quad (3x - y)(x - 3y) = \frac{\boxed{\text{ウ}}}{\boxed{\text{エ}}}$$

である。

(2) 連立不等式 $\begin{cases} |x - 3| < 4 \\ 2(3 - x) + 8 < 3(x - 2) \end{cases}$ の解は

$$\boxed{\text{オ}} < x < \boxed{\text{カ}}$$

である。

(3) 関数 $f(x) = x^2 - 4x + 2$ の $0 \leq x \leq a$ における最大値が 2, 最小値が -2 であるとき, 定数 a の値の範囲は

$$\boxed{\text{キ}} \leq a \leq \boxed{\text{ク}}$$

である。

(4) 2個のさいころを同時に投げるとき、出た目の積が10の倍数である確率は

$\frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}$ である。また、3個のさいころを同時に投げるとき、出た目の積が10の

倍数である確率は $\frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}}$ である。

第2問 (配点 25)

- (1) $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ とする。 $3\cos 2\theta + 19\sin\theta - 13 = 0$ のとき,

$$\sin\theta = \frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}, \quad \sin 2\theta = \frac{\boxed{\text{ウ}}\sqrt{\boxed{\text{エ}}}}{\boxed{\text{オ}}}$$

である。

- (2) 座標平面上で、点 (x, y) が不等式

$$(x - 3)^2 + (y - 4)^2 \leq 1$$

で表された領域を動くとき、 x がとり得る値の範囲は

$$\boxed{\text{カ}} \leq x \leq \boxed{\text{キ}}$$

である。また、 $x^2 + y^2$ がとり得る値の範囲は

$$\boxed{\text{クケ}} \leq x^2 + y^2 \leq \boxed{\text{コサ}}$$

である。

- (3) 第5項が45、第10項が15である等差数列 $\{a_n\}$ の一般項は、

$$a_n = \boxed{\text{シス}} - \boxed{\text{セ}}n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

である。また、初項から第 n 項までの和が最大になるときの n の値は

$$n = \boxed{\text{ソタ}}$$

である。

(下書き用紙)

数学の試験問題は次に続く。

第3問 (配点 25)

平面上の三角形OABにおいて、辺ABを1:2に内分する点をC、線分OCを3:1に内分する点をDとする。

(1) 条件より

$$\overrightarrow{OD} = \frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}} \overrightarrow{OC} = \frac{\boxed{\text{ウ}}}{\boxed{\text{エ}}} \overrightarrow{OA} + \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}} \overrightarrow{OB}$$

である。

(2) $BD \perp OA$ のとき、

$$\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}} |\overrightarrow{OA}|^2$$

が成り立つ。さらに、 $AD \perp OB$ のとき、

$$\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}} |\overrightarrow{OB}|^2$$

が成り立つ。

(3) (2)において、 $OA = 2\sqrt{3}$ とすると、

$$\cos \angle AOB = \frac{\sqrt{\boxed{\text{サ}}}}{\boxed{\text{シ}}}$$

であり、三角形OABの面積と外接円の半径 R の値は

$$\triangle OAB = \boxed{\text{ス}} \sqrt{\boxed{\text{セ}}}, \quad R = \frac{\boxed{\text{ソ}} \sqrt{\boxed{\text{タ}}}}{\boxed{\text{チ}}}$$

である。

第4問 (配点 25)

2つの関数

$$f(x) = 2x^2 - 4x + 1, \quad g(x) = 2x^2 - 12x + 21$$

を考える。

- (1) 2つの放物線 $y = f(x)$, $y = g(x)$ の交点 A の座標は

$$A \left(\frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}, \frac{\boxed{\text{ウ}}}{\boxed{\text{エ}}} \right)$$

である。点 A を通り x 軸と平行な直線と2つの放物線 $y = f(x)$, $y = g(x)$ で囲まれた部分の面積をそれぞれ S_1 , S_2 とおくと,

$$S_1 = \boxed{\text{オ}}, \quad S_2 = \frac{\boxed{\text{カ}}}{\boxed{\text{キ}}}$$

である。

- (2) 放物線 $y = f(x)$ 上の点 $(t, f(t))$ における接線の方程式は

$$y = \left(\boxed{\text{ク}}t - \boxed{\text{ケ}} \right)x - \boxed{\text{コ}}t^2 + \boxed{\text{サ}}$$

であり、この接線が放物線 $y = g(x)$ と接するとき、

$$t = \frac{\boxed{\text{シ}}}{\boxed{\text{ス}}}$$

である。

- (3) 2つの放物線 $y = f(x)$, $y = g(x)$ と, それに接する直線で囲まれた部分の面積を S_3 とおくと,

$$S_3 = \frac{\boxed{\text{セ}}}{\boxed{\text{ソ}}}$$

である。

(下書き用紙)

(下書き用紙)

〈解答上の注意〉

- 1 問題の文中の ア , イウ などには, 特に指示がないかぎり, 符号(−, ±), 数字(0~9)が入ります。ア, イ, ウ, …の一つ一つは, これらのいずれか一つに対応します。それらを解答用紙のア, イ, ウ, …で示された解答欄にマークして答えなさい。

例1 アイウ に−83 と答えたいとき

ア	⊖ ⊕ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
イ	⊖ ⊕ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
ウ	⊖ ⊕ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- 2 分数形で解答する場合は, 既約分数(それ以上約分できない分数)で答えなさい。符号は分子につけ, 分母につけてはいけません。

例2 キク / ケ に $-\frac{4}{5}$ と答えたいときは, $\frac{-4}{5}$ として

キ	⊖ ⊕ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
ク	⊖ ⊕ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
ケ	⊖ ⊕ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- 3 根号を含む形で解答する場合は, 根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えなさい。

例えば, コ $\sqrt{\text{サ}}$, $\frac{\sqrt{\text{シス}}}{\text{セ}}$ に $4\sqrt{2}$, $\frac{\sqrt{13}}{2}$ と答えるところを, $2\sqrt{8}$, $\frac{\sqrt{52}}{4}$ のように答えてはいけません。